

佳作

## お姉さん先生

愛知県 大口町立大口中学校二年 田邊 寛奈

キラキラと太陽が照るなか私たちは職場体験先の幼稚園に向かっています。

なぜ私は職場体験先を幼稚園にしたのかというと、将来の夢が幼稚園教諭だからです。なので私はこの貴重な体験を前に、胸を踊らせていました。

幼稚園に着くと、外で自由遊びをしていた園児の子たちが手を振ってくれました。私はかわいいなと思いつつ手を振り返していました。

この日は年中を担当することになり仕事が始まるという実感がわいてきました。緊張するなか、活動が始まりました。まずは自由遊びです。でも、ただ遊ぶだけでなく園児の子たちの安全を見守りながら活動します。私には、年少の妹がいるので小さい子と関わるのは慣れていますが、大人数の子と遊ぶのは初めてでした。園児の子たちが「名前は何」「何

で来たの」と、たくさん質問してきてくれました。

次は主活動の見学です。その活動では、困っている子に声をかけたり、助けてあげることをしました。お昼には給食を一緒に食べ、たくさんの子たちと交流しました。

そして一日が終わりました。慣れないこともあり疲れたけど、子供たちの笑顔を思い出すと疲れが吹き飛びました。正直言うと、まだ一部の園児の子が心を開いてくれない感じがしました。なので、残りの二日間頑張って誰にとっても最高の日にしようと思えました。

二日目も、一日目と同じ活動をしました。でも、年長のクラスに入ったのでひらがなを読める子が多く、「かなな先生」と呼んでくれる子もいました。そのとき、たった一年間でこんなに成長するんだと実感しました。

三日目になりました。自由遊びのときに一人の子が

「お姉さん先生、今日で終わりなの。」と聞いてきました。私はそのとき、胸が痛くなりましました。その子の瞳はとても純粹でその奥に悲しみを感じたからです。

帰る時間になり、園児の子たちが寄ってきて、「お姉さん先生、帰らないで」「またね」などとたくさんの声がきこえてきました。そのとき、園児の子たちのかわいさ、無限の成長の可能性、先生の偉大きな三日間の思い出がよみがえってきました。そしてさっきの女の子が来て、

「お姉さん先生、大好き。」

と言ってくれました。その瞳には、希望の光が灯っていました。私は

「先生もだよ。」

と言って女の子の頭をなでました。

私はこの三日間を忘れません。夢を叶える一歩をくれただけでなく、たくさんの貴重な瞬間に出会えたのだから。あの子たちに伝えたいです。「お姉さん先生はいつか立派な先生になるよ」と。